

2025 年度卒業生アンケート調査結果報告

<調査概要>

☐ 調査の方法

調査対象 2025 年度学部卒業生

調査時期 9 月卒業生：2025 年 9 月 13 日から 2026 年 3 月 31 日までの回収分を集計対象とした。

3 月卒業生：2026 年 3 月 24 日から 2026 年 3 月 31 日までの回収分を集計対象とした。

調査方法 原則、質問紙調査票を用いた学位記交付会場での集合調査

回収状況 回収率 94.5%（対象者数 6,471 人、有効回収数 6,115 件）

☐ グラフ参照時における共通注意事項

端数処理の関係上、合計と内訳が小数点第一以下で一致しないことがある。

1 大学満足度

図1は、「あなたは、法政大学および卒業学部・学科に対してどの程度満足していますか」という設問に対する回答結果である（「満足」～「不満」の4件法）。

図では、肯定的回答（「満足」または「やや満足」と回答した者の割合。以下同様）を左側に配置している。

「法政大学」に対する肯定的回答の割合は97.3%、「卒業学部・学科」に対する肯定的回答の割合は97.0%であり、いずれも高い水準であった。また、最上位回答である「満足」の割合も、「法政大学」では71.2%、「卒業学部・学科」では71.6%であった。

以上の結果から、卒業生は、大学全体および卒業学部・学科に対して、卒業時点で総じて肯定的な評価を示していることが確認された。

あなたは、法政大学および卒業学部・学科に対してどの程度満足していますか。

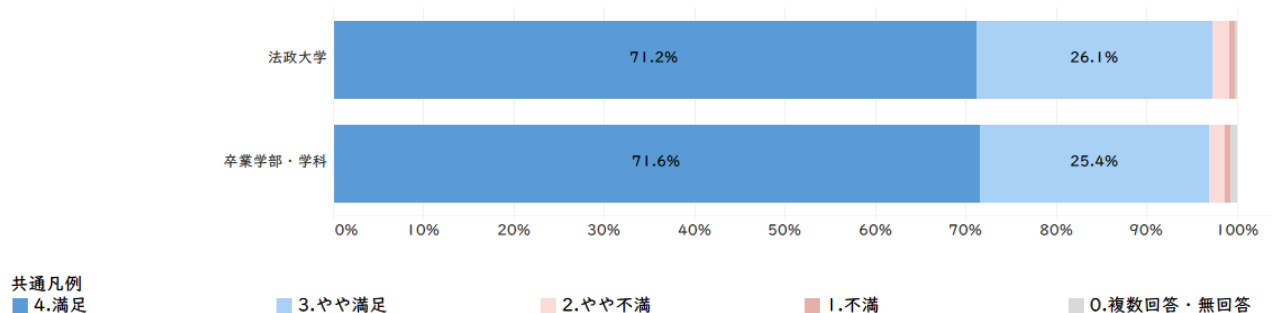


図1 大学及び卒業学部・学科に対する満足度

2 教育内容満足度

図 2 は、「教育内容についてどの程度満足していますか」という設問に対する回答結果である（「満足」～「不満」の 4 件法）。

図では、肯定的回答（「満足」または「やや満足」と回答した者の割合。以下同様）を左側に配置している。

教育内容満足度については、「教養科目」および「専門科目」が 97.5%、「カリキュラム全般」が 96.0%、「専門演習」が 95.3%と高い水準であった。いずれの項目でも肯定的回答が 9 割を超えており、卒業生は教育内容全般に対しておおむね高い満足度を示していることが確認された。

以上の結果から、教育内容全般に対する卒業時点の評価は高い水準にあることが確認された。

教育内容についてどの程度満足していますか。

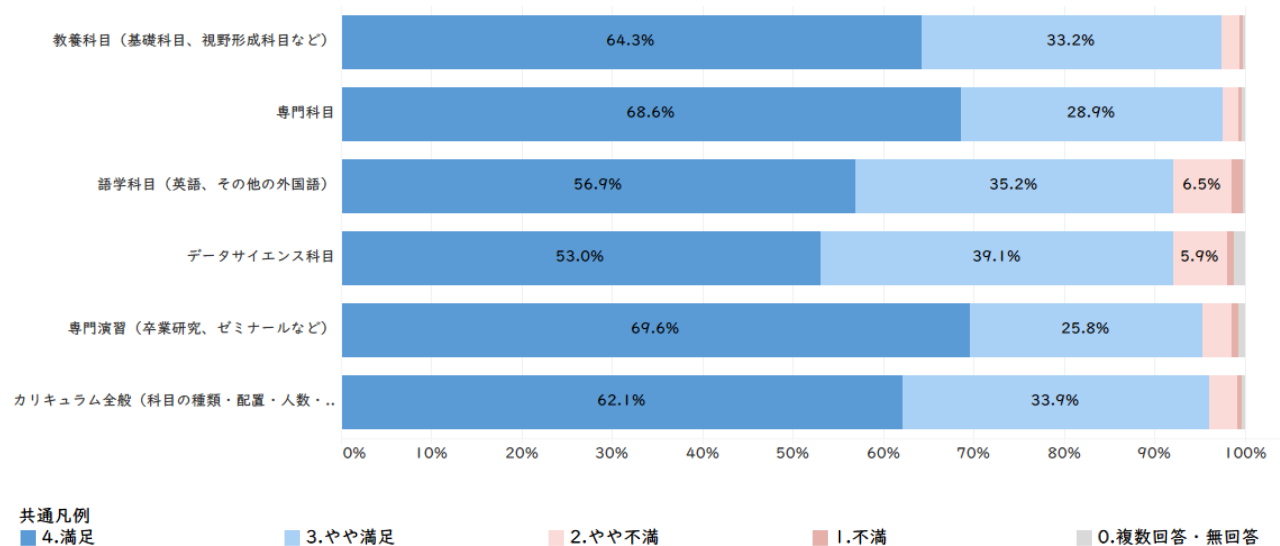


図 2 教育内容満足度

3 学位授与方針に関する習得度

図3は、「あなたは、大学での授業や活動を通して、本学の学位授与方針（1）～（7）で示されている以下の能力や姿勢、態度がどの程度身についたと思いますか」という設問に対する回答結果である（「身についた」～「身についていない」の4段階尺度に「わからない」を加えた5件法）。

図では、肯定的回答（「身についた」または「ある程度身についた」と回答した者の割合。以下同様）を左側に配置している。

学位授与方針に関する習得度については、多くの項目で肯定的回答が9割を超えていた。「客観的思考」は96.1%、「幅広い知識」は95.6%、「俯瞰的視野形成」は95.2%、「人間理解」は94.8%、「問題分析・解決力」は94.7%であり、卒業生は、DPに掲げる能力・姿勢についておおむね肯定的な自己認識を有していることが確認された。

一方、「グローバル志向」は83.6%であり、他の項目と比べると相対的に低い水準であった。以上の結果から、DPに関する習得度は全体として高い水準にある一方、グローバルな視点に関わる項目については、卒業時点の自己認識を今後も確認する項目として整理できる。

あなたは、大学での授業や活動を通して、本学の学位授与方針（1）～（7）で示されている以下の能力や姿勢、態度がどの程度身についたと思いますか。

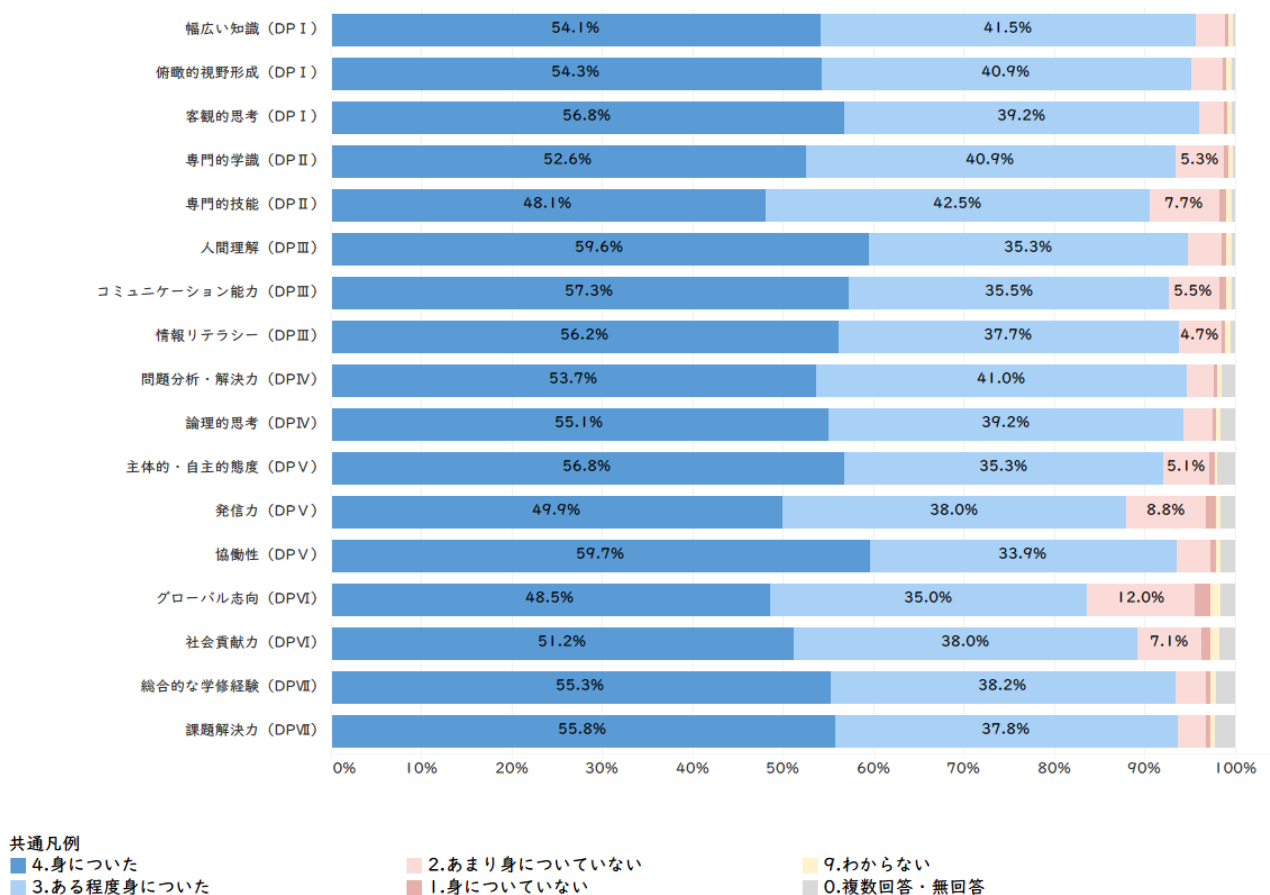


図3 学位授与方針に関する習得度

4 在学中の取り組み熱心度

図4は、「これまでの大学生活で次のような活動にどの程度熱心に取り組みましたか」という設問に対する回答結果である（「熱心に取り組んだ」～「熱心に取り組まなかった」の4段階尺度に「経験なし」を加えた5件法）。

図では、肯定的回答（「熱心に取り組んだ」または「ある程度熱心に取り組んだ」と回答した者の割合。以下同様）を左側に配置している。

在学中の取り組み熱心度については、「専門分野の学習」が90.8%と最も高く、次いで「自分で文献や資料を調べる」が89.5%、「一般教養の学習」が88.3%、「自分の考えや意見を発表する」が87.3%、「学生同士で議論する」が84.4%であった。専門分野の学習、文献・資料の調査、発表・議論などに熱心に取り組んだ学生が多いことが確認された。一方、「データサイエンスの学習」は66.8%であり、他の学習関連項目と比べて相対的に低い水準であった。

以上の結果から、在学中の学習行動は、専門分野の学習、文献・資料の調査、発表・議論を中心に高い一方、データサイエンスの学習については、今後も卒業時点の取り組み状況を確認する項目として整理できる。

あなたは、これまでの大学生活で次のような活動にどの程度熱心に取り組みましたか。

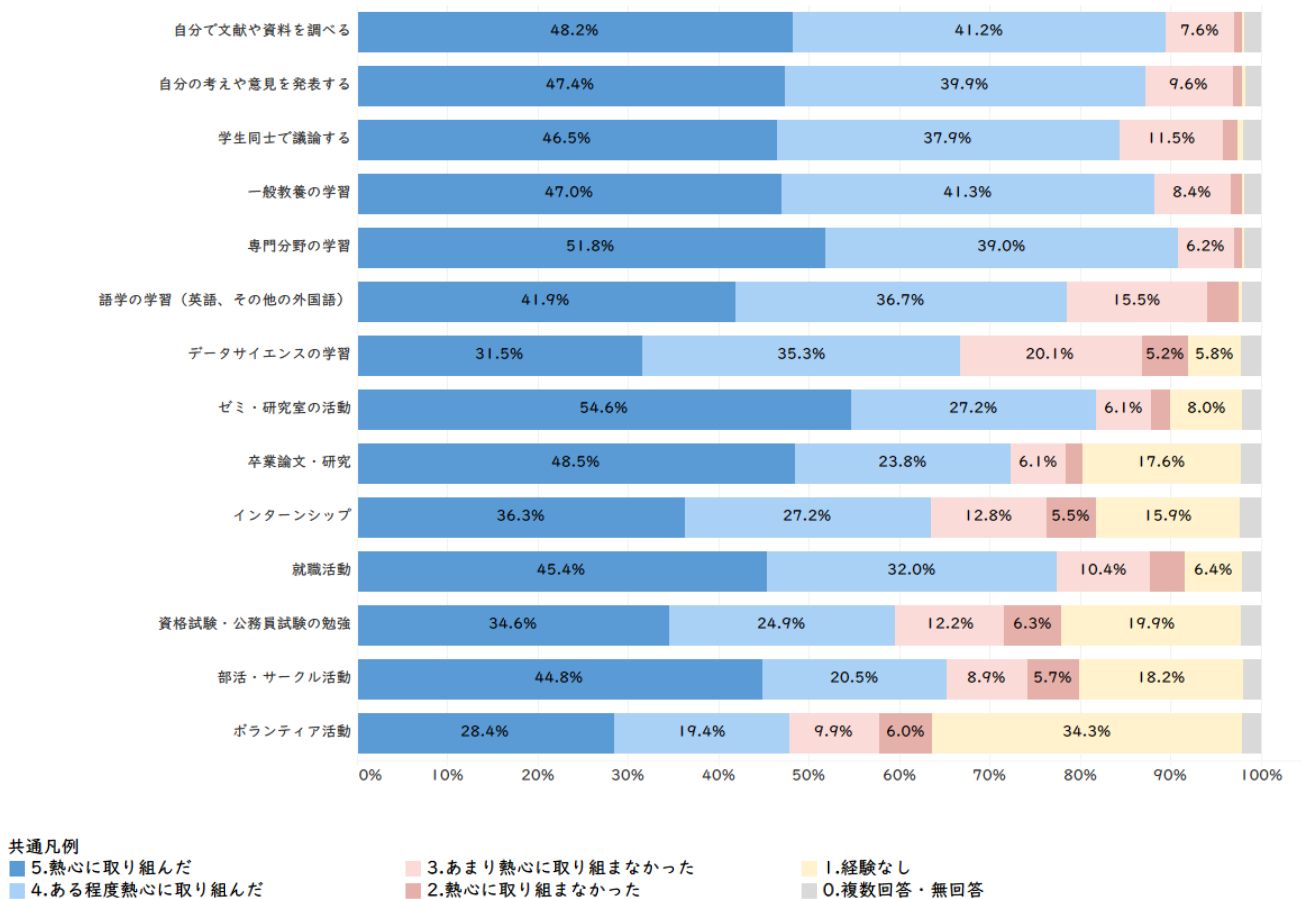


図4 在学中の取り組み熱心度

以上